

令和6年度  
研修集録



秋田県立横手高等学校

「文武両道」とは、学問と武芸のどちらにも努め、優れていることを指す語です。「文武二道」とも言い、『平家物語』には「あっぱれ、文武二道の達者かな」という記述があります。現代では勉学と運動（スポーツ）の両方に優れた人物を表して、それをあるべき姿として教育の目標に掲げている高校が多くあります。

この文武両道について、解剖学者の養老孟司氏は著書『ものがわかるということ』の中で、別の解釈を示しています。

「脳には文武両道があります。「文」とは、脳への入力です。本を読んでも、話を聞いても、人に会っても、森を散歩しても、脳へのさまざまな入力が生じます。脳はその入力情報を総合して出力をします。その出力が「武」です。入力だけでは、水を吸い込むだけのスポンジと同じです。出力だけでは、ひたすら動き回っている壊れたロボットになってしまいます。」

養老氏によれば、文武両道における「文」と「武」は別々のものではなく、相互に関連し合い、連鎖的に機能しているのだそうです。例えば、会話において、仕入れた情報を元に他者に話をするのであれば、情報を仕入れるのは入力ですから「文」、話をする行為は出力ですから「武」となります。それを聞いた他者が話の内容を理解すれば「文」、その情報に基づいて行動を起こせば「武」となります。養老氏は、「知る」ということは自分が変わることを意味し、知識をいくら増やしても行動に影響が出なければ、身に付いたことにはならないとも指摘しています。「武」がなければ「文」は無意味であるということです。

この考え方は現代において非常に示唆に富んでいます。仕事においても、専門的な知識や技術の習得（文）と、それを実際に活用し、チームと協力して成果を上げる実践力（武）の両方が求められます。

私たちの教育活動もまた文武両道です。教員は教材研究や指導法の研究（文）を経て、授業計画を立て、授業を行います（武）。生徒は教員が提供する情報を理解し（文）、何かの場面でその情報に基づいた行動を起こします（武）。教員は生徒たちの反応（武）を見て、授業が効果的であったかを知り（文）、次の授業に活かします（武）。

教員が入力を十分に行わず出力ばかりしていると、「忙しい、忙しい」と言って「ひたすら動き回る壊れたロボット」になってしまいます。生徒も先生の話をはたすら聞いているだけでは、「水を吸い込むだけのスポンジ」です。

教員は研修を積み、それを実際の授業で試み、成果を検証する。生徒は学んだ内容を何らかの行動につなげる。良い授業とは、教員と生徒の文武両道が連鎖的に機能する授業だと考えます。

## 今年度の重点目標

### 「未来を切り拓く人づくり」

すべての教育活動を通じて自己実現を支援し、希望ある未来社会の形成者を育成する。

#### 授業の質の向上

- ・知識の定着と思考力・判断力・表現力の育成。
- ・主体的に学ぶ態度を育てる。活発な質疑、意見の表明・発信の場を作る。

## 目 次

	頁
研究授業	
英語科 授業者：奥羽屋 景子 . . . . .	4
国語科 授業者：高 橋 奨 . . . . .	8
理 科 授業者：岸 嘉之 . . . . .	10
芸術科 授業者：小笠原 宏 . . . . .	14
地歴・公民科 授業者：津川 威智夫 . . . . .	18
研修報告	
中堅教諭等資質向上研修講座 奥羽屋 景子 . . . . .	29
教職5年目研修講座 濱田 風香 . . . . .	36
相互授業参観記録 . . . . .	38

# 英語科「英語コミュニケーションⅠ」学習指導案

日 時： 令和6年9月5日(木) 3校時  
 対 象： 1年B組 35名(男子17 女子18)  
 指 導 者： 奥羽屋 景子 (秋田県立横手高等学校)  
 佐藤 美里 (秋田県立仁賀保高等学校)  
 教 科 書： LANDMARKⅠ (啓林館)

## 1 単元名 Lesson 4 Eco-Tour on Yakushima

## 2 単元の目標

屋久島のエコツアーに関する英文を読み、世界遺産等について自分の考えを表現することができる。

## 3 単元と関連する CAN-DO 形式での学習到達目標

自身に関することや身近な話題について、事実や意見などを具体例や理由を挙げて書くことができる

【1年 書くこと】

## 4 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の考えを伝えるために必要な語彙や表現等を理解している。 ・世界遺産の魅力とその保護について、分かりやすく伝える技能を身に付けている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、世界遺産の魅力とその保護についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、分かりやすく伝えている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、世界遺産の魅力とその保護についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、分かりやすく伝えようとしている。

## 5 単元観

本単元では、屋久島でのエコツアーのガイドによる紹介文を聞いたり、読んだりして、様々な自然遺産について自分の考えを表現することを目標としている。扱われている言語材料は関係代名詞であり、関連する領域別項目は「書くこと」とする。ペアやグループで伝え合う活動を通して、新たな情報やものの考え方を得たり、整理したりすることで、世界遺産について様々な観点から考える機会とする。

## 6 生徒観

和やかな雰囲気でも明るく積極的な生徒が多い。英語に対する苦手意識を持つ生徒もいるが、ペアワーク・グループワークなどのクラスメイトとのコミュニケーション活動に積極的に取り組み、教師の問いかけに対する発言も活発である。与えられた課題等によく取り組む反面、英語の学力を伸ばす姿勢としてはまだ受け身な面が見られるので、自主性・主体性の涵養が今後の課題である。自分の意見や考えを伝えるような語彙や表現に乏しいため思うように自己表現できずにいるが、それらに興味を示す生徒も多いため、SSH の発表に向け各自のテーマに基づいた研究内容を簡単な英語で発表することを意識させた言語活動も必要である。

## 7 単元の指導と評価の計画 (総時数：8時間)

主な言語活動等 (◎本時の内容)	評 価
◎行ったことのある、または、行ってみたい世界遺産について英語で伝え合う。 ・説明文を読み、エコツアーの意味、屋久島の自然について理解する。 ・エコツアーの意味を踏まえて、大切にしたい世界遺産についてまとめ、ペアやグループで伝え合う。	・活動の観察 ・ワークシート ・定期考査

8 本時の学習（本時 1/8）

(1) 目標

行ってみたい世界遺産について、理由とともに伝え合うことができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	教師の支援及び留意点
導入 5分	<p>○Introduction 世界遺産について知る。</p> <p>○Today's Goal 本時の学習課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板で画像等を提示しながら世界遺産の例や関連する語句を確認する。</li> <li>行ったことのある世界遺産について問いかけ、それぞれの場所についての生徒の認知度確かめる。</li> </ul>
<p>Which World Heritage Sites do you want to go? 行ってみたい世界遺産について伝え合おう。</p>		
展開 35分	<p>○ 世界遺産を紹介しているチラシからグループで情報を読み取り、分かったことをクラスに紹介する。</p> <p>○ ペアで行ったことのある世界遺産や、行ってみたい世界遺産について英語で伝え合う。互いの内容や表現についてコメントする。ペアを替えて伝え合う。</p> <p>○ やり取りした内容を全体で共有する。</p> <p>○ 行ってみたい世界遺産について、理由とともにシートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産を紹介するチラシを数種類配付し、手順を例と共に示す。</li> <li>4人グループを作るよう指示する。</li> <li>ペア活動のモデルとして、行ってみたい世界遺産について分かりやすく伝えられるよう、電子黒板とワークシートで Focused Function の例文を示し、教師が別の場所を使ってモデルを示す。</li> <li>ペアを回って英語の表現や伝え方について助言する。</li> <li>生徒から出た意見について、キーワードを板書して比較し、共通点や相違点について確認する。</li> <li>分かりやすい表現の例や、多かった間違い等を取り上げて助言する。</li> <li>生徒の取り組み状況を確認し、英語の表現について助言する。</li> </ul>
<p>〔評価〕書くこと 聞き手に伝わるように、行ってみたい世界遺産について、基本的な語句や表現を用いて書いている。／書こうとしている。(ワークシート)</p>		
まとめ 10分	<p>○Wrap-Up 本時のまとめと振り返りを行う。</p> <p>○次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の英語の表現や、話し方について良い例や助言とともにフィードバックする。</li> <li>次時の見通しについて説明する。</li> </ul>

令和6年7月8日

**授業者より（奥羽屋景子）**

テスト明け2回目の授業で、屋久島のレッスン全部終わっていたので、その知識や学んだことを生かした活動ができないかと思って考えたのがこの活動です。パワーポイントを使ってもらったのは、屋久島なので景色の美しさが大事だということと、文で書かせると原稿を読んでしまうので、単語だけ載せて英語にできるようにしてほしくてスライドをつくらせました。気をつけたこととしては、活動して終わりではなく、生徒のその後の思考が深まるように、いろんな生徒と話させたこと、そして外的な要因を入れればスピーチの内容がより説得力のあるものになると私から提案をして深めさせて、最後書かせるという流れでもっていきました。指導主事から、スピーチしている姿を録画して送るというご提案をいただいて、最初は話すことに主眼を置いたのですが、スペルを正確に綴ることが苦手な生徒が多く、やはり書かせて指導したいという気持ちがあったので、書くことで活動を締めくくりました。

**指導助言（高校教育課英語教育推進チーム 山内由香主任指導主事）**

まずもって、生徒の明るい雰囲気素晴らしく、先生の一举一動に注目していて、先生が何か言うとうすぐリピートして、使いたい、自分も言ってみたい、コミュニケーションを取りたいという雰囲気が感じられて、すごく伸ばし甲斐のある生徒たちだと思いました。そこで、今後向上していくために「繋がる」という4つの提案をしたいと思います。

**① CAN-DO リストとのつながり**

今回の授業であれば、自分の意見を3~5文程度で書くことができるという目標ですが、小学校の先生にCAN-DO リストを作る際、全てのレッスンのねらいをリストに入れていくことを提案しています。それによって、フォーカスが足りない技能が見えてきて、どういう風にやっていけば評価できるかを考えられるので、該当するレッスンをリストに入れてみることを勧めています。そうすると、例えば、話すことの発表を4つの単元で評価するとして、それぞれの単元の最後にパフォーマンステスト等を評価に入れるけれども、大きいまとまりのなかでスキルを高めていくにはどうしたらいいかを考えたりすることもできます。どのレッスンとリストのどの項目が結びついているかを一度検証して、次年度のCAN-DO リストの修正・見直しに使っていただきたいです。高校入試の問題だと25語程度で書きなさいということですが、横手高校としては40語程度でいいのか、正確さも含めてというのであればまたリストの文言が変わってきたりするかもしれません。

## ② 既習事項との繋がり

もちろん前のユニットや前のレッスンとのつながりも大切ですが、高校一年生であれば中学校の教科書の内容とのつながりで、もう一回学び直し・問い直しをしてあげられることもできると思います。中学校は県内すべて同じ教科書を使っているのです、1冊見ていただければわかります。例えば中3で、絶滅危惧種について扱っている単元があって、最後パーソナライズした質問が載っています。高校生になってまた新しい環境で新しい仲間・新しい先生と同様の問いを得た時に自分がどう思うか。その成長も今後につながっていくので、ぜひ既習事項とのつながりを意識していただければと思います。

## ③ 他教科とのつながり

今回の屋久島は、地歴の先生の先生的にはどういう場所なのか、あるいは情報とか他教科の立場での考え方を生徒にインプットしてもらうことで、同じものを見たときに歴史的背景で考える等の相乗効果があると思います。全部の単元、全部のレッスンとはいかないと思いますが、関連性がありそうな他教科の先生とのコラボもいいと思います。

## ④ パフォーマンステストにつなげる

『指導と評価の一体化』という文科から提示されているオレンジ色の本がありますが、話すこと・発表に関しては、54ページにパフォーマンステストに行くまでの大きな単元計画が載っていて、一つの単元ともう一つの単元と二つやった後で、最終的にパフォーマンステストをするという流れになっています。最初の単元は日本の発明品に対する英文で、2つ目は海洋ゴミの問題で、最後にパフォーマンステストで評価するのは、自分たちの町をより良くするためにできることについて話をさせるテストという設定になっています。テストのやり方も載っていて、授業の最初に指示文を配付します。その中には、自分の住む町についてよりよくしたいことをまず指摘する、2つ目になぜよりよくしたいのかを伝える、3つ目はそのためにどんな行動を取りたいかっていうことを1分程度で話してもらいますという指示があります。準備時間を10分あげますので、考えてください。そして10分経ったら、グループで発表したり、あるいはタブレットに自分で吹き込んだりする流れが載っています。このように、ひとつの単元で終わってしまうのではなく、複数の単元が終わったところで、その単元のいろんなことをまとめて、このお題でこのことを話してみてくださいというパフォーマンステストがあります。これが最初にお話したCAN-DO リストとのつながりに戻っていくと思いますが、こういった形で、育てたい力をできるだけ具体的にイメージして、何を指導しなければいけないのかが明確になってくると思います。

これら4つのつながりを意識して活動していただくようよろしくお願いいたします。

## 国語科 学習指導案

日 時：令和6年9月6日（金）3校時  
場 所：1年4組教室  
対象クラス：1年4組（35名）  
指 導 者：高橋 奨  
使用教科書：「言語文化」（筑摩書房）

1. 単元名 物語の展開や言葉による表現に注目して、作品の主題を読み取る。（『羅生門』）

### 2. 単元の目標

- ・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解することができる。〔知識及び技能〕（1）オ
- ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。〔思考力・判断力・表現力等〕B（1）エ
- ・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕

### 3. 単元観

『羅生門』は芥川龍之介によって書かれた小説であり、平安朝を生きる下人が、老婆との出会いを通して変化を遂げる物語となっている。羅生門という建造物を舞台に、場面ごとに移り変わる下人の内面が描かれており、下人という1人の人間の自己の形成が読み取れる作品である。高校生となった生徒が初めて授業で学習する小説であるが、物語の構成や描写から考察できる要素も多いため、『今昔物語集』との比較をとおして協働的な学びを通して考えを深めることができる教材と考えられる。

### 4. 生徒観

全体的に落ち着いたクラスだが、ペア・グループワークでは意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、授業で発言する生徒が固定してきていて、自分の考えを発表する場面では差が見られる。定期考査等ではクラス平均点が高い状況であるため、発言は遠慮しつつも記述であれば表現できる生徒が多いと考えられる。本単元では、グループワークを通して小説の理解を深めた上で、作品の主題に対する個人の見解を論理的にまとめる姿勢を育成したい。

### 5. 単元の指導計画と評価計画

時	評価規準			学習活動
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1		物語全体の構成を、根拠をもって分けられている。	初読を終えた感想と疑問を整理してまとめようとしている。	○全文を音読して初読の感想をまとめる。 ○全体の構成について考える。
2	小説における描写について理解する。	描写に注目して、物語の設定について考察できている。		○中学校で既習の小説をもとに、描写の効果を考える。 ○物語の設定を読み取れる表現を探す。
3		本文の記述から、第1段落の下人の境遇と心理を読み取れている。		○物語の舞台の状況を踏まえて、第1段落の下人の心理を考える。



4		本文の記述から、第3段落までの下人の心理変化を読み取れている。		○第2、第3段落の下人の心理を読み取り、その推移の背景をまとめる。
5		下人が最終的な結論にたどりつくまでの心理変化を読み取れている。		○老婆の論理と下人の論理を比較し、その関係性をまとめる。
6		『羅生門』と『今昔物語集』の相違点から、作品の主題を考察できている。	授業で学んだことを踏まえ、初読時よりも深い考えをまとめることができる。	○典拠とされる『今昔物語集』と比較し、『羅生門』というタイトルの意味を考える。 ○学習してきたことを踏まえ、作品の主題について考える。

## 6. 本時のねらい（6／6時間）

『羅生門』と『今昔物語集』「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の話」を比較し、作品の主題について考えをまとめることができる。

## 7. 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの振り返りをする。</li> <li>・本時の目標を確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">『羅生門』の「生」に込められた意図を理解する。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『羅生門』での下人の決断に至るまでの心理変化を確認させる。</li> </ul>	
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『今昔物語集』を読み、『羅生門』との相似点と相違点を探す。</li> <li>・グループを作り、気づきを共有する。</li> <li>・比較に基づいて、『羅生門』という作品についてまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">発問：作者が「羅城門」を「羅生門」にしたのはなぜか</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較した気づきをできるだけ多く書かせる。</li> <li>・個人の気づきを共通点や相違点としてグループで整理させる。</li> <li>・簡潔な形でまとめさせる。</li> <li>・初読時に考えたものから変容があるかを確認させる。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較に基づいて、『羅生門』の主題をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を示して記述するよう指示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較に基づいて作品の主題を考えている。 [思考・判断・表現] (記述の点検)</li> </ul>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を終えた振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな疑問点を含めて、考えたことを記入させる。</li> </ul>	

# 秋田県立横手高等学校・理科（化学）学習指導案

日 付：令和6年10月28日（月）4校時

授 業 者：教諭 岸 嘉之

使用教科書：第一学習社 高等学校 化学

（183第一 化学708）

対象クラス：横手高等学校 2年理系3組

実 施 教 室：化学実験室

1. 単 元 名 第I章 物質の状態 第1節 物質の状態変化 3 飽和蒸気圧と蒸気圧曲線
2. 単元の目標 物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連付けて理解させるとともに、状態変化に伴うエネルギーの出入りや、状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解させる。
3. 単元の計画
  - 1 物質の三態とその変化 . . . . . 2時間
  - 2 気体分子の熱運動と圧力 . . . . . 1時間
  - 3 飽和蒸気圧と蒸気圧曲線 . . . . . 2時間（本時1／2）
4. 生徒の様子 男子22名、女子16名の計38名のクラスである。全員が物理選択であり、この単元においては、気体分子の運動という視点で考察していくことへの抵抗感はありません。授業に向かう姿勢も良好で、毎回の授業内の演習においては与えられたプリントを時間内で解き切ろうと粘り強く取り組んでいる様子が見られる。その際には周囲の生徒とも積極的に関わろうとしており、その雰囲気を活かしながら効果的な学習指導を図っていきたいと考えている。

## 5. 評価の観点

●：知識・技能	★：思考・判断・表現	▲：主体的に学習に取り組む態度
①構成粒子の熱運動と物質の三態変化を理解し、知識を身に付けている。 ②物質の融点・沸点が分子間力や化学結合の種類と関係し、粒子間に働く力が大きいほど高くなることを理解している。 ③ファンデルワールス力や水素結合について理解している。 ④平衡状態の概念を理解し、知識を身に付けている。 ⑤沸騰と飽和蒸気圧との関係を理解し、知識を身に付けている。	①気体の圧力を、分子の熱運動と関連づけて考察している。 ②気液平衡における構成粒子の挙動を平衡状態の概念を踏まえて説明している。 ③観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりしている。	①物質の状態変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

## 6. 本時の計画

- (1) ねらい
- ① 温度に応じて気体の体積が変化することをグラフに表すことができる。
  - ② 蒸気圧曲線を比較して、水とエタノールの沸点の違いを考察できる。

### (2) 展開

過程	学習活動	教師の指導上の留意点	評価の観点と方法
導入 5分	・状態図を見ながら、図に描かれている要素について確認する。	・各領域の状態と、領域を分ける曲線の名称について確認し、本時は蒸気圧曲線を扱うことを強調する。	
<p>&lt;本時の目標&gt; 蒸気圧曲線の作成を通して、水とエタノールの沸点の違いを考察できる。</p>			
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の目的や操作手順、注意点について確認する。</li> <li>・水とエタノールのどちらを選ぶか班で決定し、手順に従って実験操作を行う。</li> <li>・測定により得られたデータを Google スプレッドシートに入力し、グラフを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡潔な説明を心がける。</li> <li>・基準温度および基準体積は予め測定しておき、実験時の気圧で換算して生徒に伝える。</li> <li>・やけど等の怪我が起きないように机間巡視しながら指導する。</li> <li>・グラフの変化が見やすくなるような適切な値の範囲を設定させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果をグラフで表現できる。(●・スプレッドシート)</li> </ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班の蒸気圧曲線をクラス全体で共有し、考察の文章を完成させる。</li> <li>・本時の活動を自己評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜、グラフの読み取りや考察のポイントについて机間巡視しながら指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班のグラフを比較し、沸点の違いを自分の言葉で表現できる。(★・プリント)</li> </ul>

本実験の参考 URL

<https://www.mirai-kougaku.jp/laboratory/pages/200327.php>

# 令和6年度横手高校公開研究授業 研究協議会記録（理科）

記録者 高橋 里実

## I 日程

### 【研究授業】

日時：10月28日（月）11：55～12：50（4校時）

場所：秋田県立横手高等学校 化学実験室

対象生徒：2年3組（38名）

科目名：化学

単元名：第I章 物質の状態

第1節 物質の状態変化

3 飽和蒸気圧と蒸気圧曲線

授業者：岸 嘉之

### 【研究協議会】

日時：10月28日（月）13：45～14：20

## II 研究協議会参加者

藤原健、小西弘磨、岡本由佳子、細谷進、小野寺庸、瀬々将吏、佐々木重宏  
加藤華世、高橋里実、岸嘉之（授業者）

## III 授業者からの報告

- ・発展化学の最初の単元は理論部分の学習指導が多い分野であり、実験や観察を取り入れようとした際の題材選びに苦慮した。
- ・蒸気圧曲線について、実験を通じて曲線を作成することをやってみようと考えた。
- ・予備実験においては、細谷先生・加藤先生にご協力いただき、効率よくデータを取得するための操作の工夫についてアドバイスをいただいた。当初の案よりもかなりスムーズでシンプルな実験操作とすることができた。
- ・今回は蒸気圧曲線として出題される頻度が高く、沸点到顕著な違いがある水とエタノールを取り上げた。班ごとに物質を選ばせることで生徒の主体性がある実験活動とした。
- ・グラフをしっかりと作ることを目的とし、作成したグラフからそれぞれの沸点の違いまで考察することを想定した授業づくりを行った。

- ・データ処理においては、スプレッドシートを用いることでグラフを作成するために要する時間を短縮させ、考察まで余裕を持って行えるようにした。スプレッドシートの採用については、リアルタイムでの共有の容易さという利点もあった。
- ・スプレッドシートの設計については、生徒の入力は必要最小限となるように予め必要な数式は入力しておいた。このやり方は、グラフを作成するためのデータがスピーディに得られる一方で、生徒が自分たちの実験で得られたデータがどのように処理され、必要な値が導き出されているかを理解できないことも危惧される。これについては事後のフォローが必要であると考ええる。
- ・普段から実験中の板書は、生徒に配付したプリントをそのままスクリーンに投影し「今、どこに注目すべきか」や「今、何をやる時間か」ということが視覚的に理解しやすいようにしている。実験操作において注意すべきことや注目したいことが伝わりやすいと感じている。また、今回はプリントに QR コードを印刷しておくことでスプレッドシートへのアクセスが容易になるよう工夫した。
- ・授業全体の時間設定は適切であったと考える。最後の考察の部分を全体で共有する部分はもう数名に発表をさせたかった。しかし、実験の説明から操作、データ処理、グラフ作成、考察と1時間でやる内容が多かったが最後の意見の共有まで時間内でできた。
- ・実験操作が適切でなかったことにより、信頼性の高いデータが得られなかった班もあったようである。授業者の説明において注意や強調が不足していた部分があった。

#### IV 参加者からの感想

- ・実験の指示が簡潔で分かりやすかった。注意事項を書き込んだ実験プリントをスライドにして説明していたので、生徒たちにしっかり伝わっていた。
- ・授業のテンポが良く、授業の進め方が大変参考になった。生徒が自分で書いたものと他の生徒が書いたものを比較させるという本来時間がかかることが時間内にできていた。結果をグラフにまとめさせ、さらに考察までできていたことに感心した。
- ・体積を測って圧力との関係を確認していることを生徒は理解できていたか？
- ・生徒たちがよく動いていたのがとても印象的だった。
- ・熱湯をもって歩く動線を工夫するなど、安全面の配慮がされていた。
- ・ICTの活用によって時間短縮できていた。グラフも生徒たちに作らせていた。
- ・導入で示した状態図が水である理由を言わないままだったのは狙いか？
- ・蒸気圧の導き方を提示しても良かったのではないか？
- ・考察を自由記述ではなくキーワードを選ぶ形式にするのを参考にしたい。
- ・見たこともやったこともない実験を研究授業でやってみたことが科の研修につながった。
- ・グラフを最初に提示して予想させるというやり方でも良かった。
- ・どこを視点にするかで結果の表現が異なる実験で、それも狙いだったのかもしれない。

# 芸術科(美術)美術 I 学習指導案

日 時:令和6年10月29日(火)3校時

授業者:教諭 小笠原宏

教科書:光村図書 美術1

対 象:1年5組(美術 I 選択)19名

場 所:美術室

## 1 単元名 「彫刻 生命感をあらわす」

### 2 題材について

#### (1) 生徒の実態

35人のクラスから男子10人、女子9人の美術選択者を分けたクラスである。絵の具やアプリケーションを使って巧みに絵画やデザインを制作できるが、積極的に主張することは得意でない生徒もいる。本課題をとおして平面だけでなく立体や空間についての思考や感覚を高め、自分の表現を周りに伝えることに喜びを感じてほしいと考える。

#### (2) 題材設定について

本題材は、材料から形を削り出して作品を作る「彫刻」を扱う。どうしたら描いたイメージを立体にできるのか思考し、道具を使って表現することが求められる課題となっている。物の形態を奥行きを持った空間として把握することは個人によって得意不得意が大きいと考えられる。直感に頼らず平面と立体の関係を理解し、順序立てて制作することで物の量や面の方向を空間的に理解し、立体表現の基礎とすることで柔軟な思考と表現力の高まりを目指したい。また「生命感をあらわす」をテーマとし、何が生命感をあらわすのかを想像して形にするという活動をとおして立体作品が内包する力を意識し、それを表現、鑑賞できることを目標としたい。

### 3 目標及び評価規準

#### (1) 題材の目標

- ・量感や質感、動勢などをもとに生命感をあらわした彫刻を理解し、意図に応じた表現方法を工夫し主題を創造的にあらわす。
- ・「生命感」から主題を生成し、創造的な表現の構想を練る。生命感をあらわした彫刻のよさを感じ取り、見方や感じ方を深める。
- ・主体的に感じ取った生命感をもとにした表現に取り組む。主体的に生命感をあらわした彫刻のよさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて鑑賞する。

#### (2) 題材の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、量感や質感、動勢などの造形的な特徴などをもとに、生命感をあらわした彫刻を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</li><li>・意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、立体であらわす表現の方法を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・人や動物などを見つめて感じ取った生命感などから主題を生成し、材料の特性を生かし、質感や量感、動勢などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</li><li>・生命感をあらわした彫刻の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・主体的に自然を見つめ、感じ取った生命感をもとにした表現の創造活動に取り組もうとしている。</li><li>・主体的に生命感をあらわした彫刻の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</li></ul>

4 単元の指導計画（全12時間扱い）

時間	目標	学習活動
2	素材と技法について、練習課題で研究する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題：卵をつくる。</li> <li>・材料（スタイロフォーム）、道具（カッターナイフ）を示し、素材と技法について実習する。（個人）</li> </ul>
2	主題を生成し構想を練る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生命感」をあらわすことを目標に主題を生成する。立体の量や動勢などによって生命感を表すようスケッチして構想を練る。</li> </ul>
1	図→立体を作る事を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三面図を学び、グループで協力して、図からの確に立体に起こせるようになる。</li> </ul>
6	課題等で学んだことを基に創造的に制作する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケッチを元に制作する。</li> <li>・参考となる彫刻作品を鑑賞して制作方法に活かす。</li> <li>・作品の形を見ながら途中変更も行う。</li> </ul>
1	生徒作品を鑑賞し、見方や感じ方を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者と鑑賞者で意見交換を行う。</li> </ul>

5 本時の学習（5/12時）

学習のめあて

- ・三面図と立体図のつながりを理解する。
- ・材料と道具の特性を生かして制作する。

時間	学習活動	指導の工夫	評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の見通しをもち、学習のめあてを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三面図と立体図の例を見やすく提示する。</li> <li>・作図しやすいワークシートを用意する。</li> </ul>	
展開 45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な三面図と立体図の例を元に図の見方を理解する。（5分）</li> <li>・簡単な立体図を見て三面図を描く。（5分）</li> <li>・三面図から立体図を想像し、描く。（10分）</li> <li>・三面図を元に材料を削って立体を制作する。（25分）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体図から三面図、三面図から立体図へと双方向に関係を確認する。</li> <li>・立体図を想像する際にはグループでの話し合いも勧める。</li> <li>・材料を削り出す際には三面図の一面から順に形を決めていくよう促す。</li> <li>・作業の安全に十分留意させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートへの作図（知識・技能）</li> <li>・材料を使った制作物（知識・技能）（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）</li> </ul>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作を通して、気づいたこと、感想を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この方法が本番の制作に有効であることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートへの記入（主体的に学習に取り組む態度）</li> </ul>

## 芸術科（美術）美術Ⅰ 研究協議会

令和6年10月29日（火）4校時

### 授業者より

年間では平面（絵画）的なことと彫刻、デザイン、映像メディアを扱い、1学期は風景、デザインと平面が続いたので、2学期は立体に取り組んでいる。彫刻のテーマは「生命感を表す」。本時はテーマにあまり関係ないが、立体感覚に対する意識を高めるための授業を行った。彫刻を作っていれば立体感覚をだんだんつかんでいくが、限られた時間の中で立体感覚を伸ばす方法はないだろうか、演習的な課題を考えた。最初は彫刻の下書きを平面で考えるが、それがどう立体になるかというところでつまずいてしまう。下書きの絵の段階ではもっと変化があるのになかなか削ることができないまま、最後まで材料が四角いまま終わる生徒もいる。本番の作品を作るときには、一気にその形に迫ることに繋げたい。段階を踏んで、上達してくれればと思う。生徒は題材に熱心に取り組み、作るの是一生懸命である。本時は同じ題材で同じ結果を求めるために、最後の方に授業展開のバランスを持ってくればよかったと思う。自然に意見交換があってお互い高めあうことにつながればという全体のイメージはあったが、細かいところはいろいろ失敗もあった。

### 横手城南高校 遠藤先生

1年間を通して平面から立体に持って行くというバランスよい授業計画がなされている。美術では、1時間でできる授業はなかなかなく、継続的な指導を要する。本時は、説明と実技の両方がいいバランスでできている授業展開に感心した。時間配分として、最後のメインのところにもっと時間をもちとれば完璧だった。生徒自身による気づきが生まれるすばらしい授業で、生徒が出口を見つけ、答えは最後にという展開がよかった。書画カメラで手元を見せるのが非常に良く、恵まれた設備を活かした授業だった。

### 横手高校 齊藤先生

芸術は感性の問題だと思い込んでいたが、思考力の深まる授業だった。本当に没頭して夢中になって取り組んでいる生徒の姿が印象に残っている。最後の方の時間がという反省があったが、次週に持ち越したことで、次の授業が楽しみになって、この後の休み時間も友達と話したり、家でもあれこれ考えてみたりするのではないかと思うと、次週に持ち越したのがよかった。自分も中学生の時にトーテムポールを作る授業で、やっぱり削れなくて、ただの四角い木のまま、ちょっとだけくぼみを入れたものになってしまった。こういうアプローチがあれば、苦手意識のある生徒でも、思考力を活かして表現することで、作品制作の達成感を得られると思った。



## 横手高校 田村先生

普段は同時展開であるため美術の授業を見ることができないが、授業の組み立て方、考え方、着眼点が非常に勉強になった。ここに至るまでの平面の授業内容から、年間を通しての積み重ね、関連性、一連の流れの中で本時は意義深い。物事を多角的に見ることが思考力を刺激する。このことは音楽においても重要で、複数のことが関連して生まれるという理知的・理論的な部分を考えさせられた。芸術科は感性のみでとらえるだけではなく、そこにきちんとした裏付けがある。本時の授業は数学との関連性があり、答えは一つではないと考えがちな芸術において、答えが一つであるものに取り組み、イメージを発見するのが興味深い。授業間の関連性を持たせるという意味では、本時だけで終わってしまうのはもったいないことで、中途半端に終わって次につながることも良いと感じた。この時間にこれをやりきらなきゃいけないと思いがちだが、もっと大事なことがある。この後の実際の制作がどうなるか非常に楽しみである。

**小笠原** 個人の感性にとどまるのではなく、生徒同士がお互いに共通して分かりあうということを目指している。作品を通して人と交流してほしい。美術の授業では「わかった」というのがなかなかなく、もやもやしたまま終わることが多い。上手い下手で評価しないが、どうしても生来の得意不得意によってしまうところがある。上手い作品が目を引き、生徒の間では無意識に格差が生じてしまいかねない。みんないいものを持っているので、それを技術が後押ししてくれるような適切な題材があればと思う。もともと器用でなくても、真面目に一生懸命やる生徒はうまく制作できるようになってくるし、技術指導が上手くはまれば、生徒たちの一生懸命さにつながる。覚えるためだけの技術ではなく何かに活かせることにつながればいい。

**遠藤** デッサンも実は答えがあって、受験に直結している。勉強としての基礎の部分（理屈）と感性を見せるところのバランスが難しい。自分の作った作品に指導者から手を入れられるのをいやがる生徒もいるが、両方やらないといけない。

**田村** 音楽は、まずは共感しあいながら一つのものを作っていくことを重視しているが、学理的なものもある程度きちんと指導する必要がある。得意不得意に関しては、音楽はジャンルでガラッと違う。歌は得意だけど楽器は下手とか、その逆とか。どっちも苦手ならば理論的などころで攻め、表現は苦手でも知識を求められる部分でがんばる生徒も評価したい。

**遠藤** 年間を通して多面的な授業を展開すると、生徒本来のいいところが見えるのではないかな。

**小笠原** 逆転がいっぱい起きるように年間の授業計画を立てたいと思う。評価の観点について、他教科と比べて芸術科では表現が評価対象になる部分が多く、美術は特に感覚的なことでやっていくところが多いが、今回のところで順序だてて考え理解できたかという思考・理解の評価に反映できると思う。

## 公民科「公共」学習指導案

実施日時 令和6年10月29日(火)  
6校時

会場 2年2組教室  
クラス 2年2組(39名)  
指導者名 津川 威智夫

- 1 単元(題材)名 「お金とはなにか? ～ 貨幣の機能と構造を探る ～ 」(『公共』東京書籍)
- 2 単元目標
  - ・貨幣の役割と通貨制度, 金融システム, 金融市場と金利の動き, 中央銀行の役割と金融政策, 金融の自由化などの金融の動向について理解する。
  - ・金融と金融システムが日々の生活と密接にかかわっていることに気付く。

## 3 単元(題材)の設定

## (1) 生徒観

男子22名、女子17名の計39名の普通科理型クラスである。比較的活発で、明るい雰囲気での授業になることが多い。「公共」の授業は2単位で、1学期に「社会の中の自己」「共に生きるための倫理」「民主的な社会」、2学期から「民主政治」「法の働き」を学習し、10月から経済分野に入ったところである。本時は「市場経済における金融の働き」の単元のスピンのオフとして、年間指導計画では予定していなかった内容を扱う。

## (2) 教材観

貨幣に関しては、教科書本文500字程度で扱われているにすぎないが、新紙幣発行という話題に加えて、最近の電子マネーの普及、キャッシュレス化などもあり、経済に興味・関心をもたせる絶好の教材である。その機能と構造を探ることは、人間の意識や思考構造に迫ることに重なり、人間理解の面でも興味深いテーマである。

## (3) 指導観

年間指導計画では「金融のしくみと働き」は1時間で学習するものであるが、研究授業の機会を与えられたので、貨幣の機能と構造について、教科書のレベルを超えて探究させたい。主発問の答えは定説のないものであり、生徒がどのような言説を作り上げるのか(あるいは、作り上げることが不可能なのか)、授業者も確たる見通しはないので、生徒とともに探究する。

## 4 単元の配当計画と評価規準

配当計画：市場経済における金融の働き

- ・金融のしくみと働き(「お金とは何か」(1時間 本時)・「金融のしくみと働き」(1時間))
- ・中央銀行の役割と金融環境の変化(1時間)

評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・貨幣の役割と通貨制度, 直接金融と間接金融, 金融システム, 金融市場と金利の動き, 中央銀行の役割と金融政策, 金融の自由化などの金融の動向について理解している。</li> <li>・教科書記載の資料及びその他の資料から, 必要な情報を適切かつ効果的に収集し, 読み取り, まとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貨幣の役割と通貨制度, 直接金融と間接金融, 金融システム, 金融市場と金利の動き, 中央銀行の役割と金融政策, 金融の自由化などの金融の動向について, 多面的・多角的に考察し, 表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貨幣の役割と通貨制度, 直接金融と間接金融, 金融システム, 金融市場と金利の動き, 中央銀行の役割と金融政策, 金融の自由化などの金融の動向について, 主体的に追究している。</li> </ul>

5 本時の計画（1／3時間目）

(1) 本時の目標

貨幣の役割に関心を持ち、調べた結果を論理的に判断・思考し、表現する。

(2) 展開 (評価の観点 A 知識・技能 B 思考・判断・表現 C 主体的に学習に取り組む態度)

段階	学習活動	◇指導上の留意点	◆評価【観点】
導入 15分	1 「貨幣の役割」を確認する。 2 不換紙幣が貨幣の役割を果たしている構造を理解する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             本時の目標：貨幣の機能と構造を理解する           </div>	◇不換紙幣誕生の経緯の理解を支援。	
展開 30分	3 「通貨の強制通用は何によって保障されているのか？」を考察する。 4 「100円をなぜ紙幣にしないのか？ 10,000円をなぜ硬貨にしないのか？」の問題に取り組む。 ・各自考え、班ごとに協議する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             主発問：100円・500円紙幣が硬貨に切り替わった共通の理由は何か？           </div>	◇既習事項からヒントになるものを助言する。  ◇「もし～だったら」という思考法で考えるように促す。	
	5 「100円・500円が、紙幣から硬貨に切り替わった共通の理由はあるか？」について班ごとに探究する。 ・クロムブックを使用 ・発見した言説をマグネットシートに記入する	◇仮説の例を挙げ、何を探究すべきか明確にする。 ◇妥当な言説を挙げられなかった班には、立証できないことが判明した言説を挙げさせる。	◆貨幣について関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。【C】 論理的に思考・判断し、表現することができる。【A】【B】
発表 まとめ 10分	6 マグネットシートをもとに発表し、他の班の発表内容を理解して考察する。	・助言、補完する。	

6. 協議の視点

(1) 貨幣に関する抽象度の高い内容を、生徒が理解できるように教材化して授業展開できたか。

(2) 「正解」のない答えを探す、本時の最後の活動が、学習効果のある妥当なものであったか。

## 高教研地歴公民部会授業研修会

10月29日（火）

秋田県立横手高等学校

テーマ：社会的な見方・考え方を働かせるための指導の工夫

授業者：津川威智夫（横手高校）

司会：佐々木満（西仙北高校）

指導助言：栗原渉（西仙北高校校長）

記録：打矢泰之（横手高校）

司会：只今から秋田県高等学校教育研究地歴公民部会、令和6年度県南地区高教研研究授業研修会に入りたいと思います。開会の挨拶を部会長の平成高校佐藤嘉彦校長先生にお願いいたします。

佐藤：改めまして、本日はお世話になります。今年度から高教研の会長を務めさせていただいております。よろしくお願いいたします。前事務局校の大曲高校、現事務局校の秋田高校のご協力をいただき、今年度からは研究大会を先週開催できて、今日も含めて各3地区で授業研究会を開催することになりました。まずは、県南地区の開催にあたりまして、幹事の打矢先生を初めとします横手高校さん、西仙北高校の佐々木先生に色々お世話になってこの会を開くことができました。そして、今日研究授業をされた横手高校の津川先生、そして2年2組の皆さんにこの場をお借りして感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

新学習指導要領で出てくる探究的な学び、教科横断、社会との関わりなどについては、地歴公民の先輩方が年々工夫を重ねて実践してきたことと重なる部分が多いと思いますので、私たちも自信を持ってそれをみんなで発信していく体制を改めてこの高教研で整えることができればと思いますし、研究会自体でも様々なこのコンテンツをもう少し提供して、皆さんが活躍しているところをお互い提供できればという思いで今回スタートしたところなので、なんとかこれからも皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

司会：大変ありがとうございました。次に私の方から、今回の授業研修会の指導助言者の紹介をいたします。助言者は、西仙北高校の栗原渉校長先生です。

助言者：本日はよろしくお願いいたします。

司会：どうかよろしくお願いいたします。次に、今回の研究事業の事業者及び記録者の紹介をさせていただきます。授業者は横手高等学校の津川威智夫先生です。

授業者：よろしくお願いいたします。

司会：本当に日々の授業でお忙しいなか、授業準備の段階から多大なご苦勞をおかけしました。

大変ありがとうございました。記録者は横手高等学校の打矢泰之先生です。

記録：どうかよろしく願いいたします。

司会：そして、司会は西仙北高校の佐々木満です。スムーズな進行に努めたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。それでは授業者報告ということで、津川先生の方から今回の研究授業についてのお話をいただければと存じます。どうかよろしく願いいたします。

授業者：よろしく願いします。私は、普段から授業は面白くなければだめだと思っています。そこで、何か面白い授業をできないかなと教科書をめくっていて、そこで思いついたところに決めました。ただ授業でもお話しした通り普段はやってない内容でした。貨幣の役割はもちろん授業でやりますが、それ以外のところはほとんど教科書にも載っていないですし、このような機会がなければやらなかった内容です。私も初めてやる内容でした。見ていただいた通り、よく言えばリラックスして気負いなくできました。逆に言うと、これが研究授業の研究に値するのかなと思うところもあり、少し申し訳ないような気もしています。それから、非常にこうアナログな授業で、今回の内容でしたらパワーポイント使って授業を行われる先生もいると思いますが、そこを相変わらず黒板に紙を貼ったりしてやっています。ただ私としては、授業が終わった時に黒板をぱっと見て、今日の授業の内容が分かる板書を普段から心がけていますので、その役には立っているのではないかなと思っています。それから、今年はできるだけシンプルに発問と指示で授業を組み立てることに挑戦しています。発問には結構工夫しております。色々指摘していただければと思いますので、よろしく願いします。

司会：ありがとうございました。次に、参観者の先生方からのご意見やご感想などいただければと思います。本日の指導案に協議の視点があります。ここが協議のポイントになりますので、抽象度の高い内容を教材化した授業で、正解のない答えを探す活動に学習効果があるか否か、この点にも触れていただければと存じますので、どうかよろしく願いします。色々お願いして申し訳ありませんが、どうかよろしく願いします。

千葉：横手城南高校の千葉と申します。よろしく願いします。先ほどお話にもありましたが、答えのないものについて考えていくということで、最後も主発問のところで本当に生徒たちが一生懸命考え、おそらくは本当に頭をフル回転させて考える時間になった姿を見ることができたので、この55分の活動の中で、本当に生徒たちは良い活動したと思って見ておりました。あと、主発問のところ、本当に私も答えが出なくて、生徒たちと一緒に考えました。普段こういう時間までできてないものですから反省をした次第です。

津川先生にお聞きしたいことがあります。今日は問と書いたものが4つありましたが、普段から発問をあのよう提示されるものでしょうか。あと、問い1のカードがなかった

のはあえてなのか、また何か意図したものがあつたのかなと思います、もし良ければ発問の数と言いますか、問い1のカードを提示しなかった理由についてお願いしたいと思います。

授業者：大きな問いがあつて、それから小さな問いがいくつかあるのがいつもの授業です。今日は主発問となっていますけど、普段は別に主も何も正直に言うと考えておりません。今日の授業の大きな問いがあつて、その後に小さな問いがいくつか出てくるのがいつも授業です。問い1がなかったのは、普段は紙に準備しているわけではなく全部手で書きますが、問い1はすぐに書けるので、準備する必要はないかと思いました

斉藤：秋田高校の斉藤です。担当は公民です。先ほど部会長の話にもありましたけれども、今年度この部会の事務局を担当しております。コロナ関係ということもありまして、形が大きく変わり、研究大会と研究授業を切り離し、さらに研究事業に関しては3地区で分散開催をすることになりました。その初年度ということで、様々な先生方からお知恵をいただき、そしてご協力をいただき、このように開催しております。明後日、本荘高校で世界史の研究授業もありますが、それを持って一区切りということになります。

まず、会場校である横手高校の佐藤校長先生、また幹事である打矢先生、理事である佐々木先生、様々な方々からご協力をいただきました。会場設営と横手高校の地歴公民科の先生方には大変ご迷惑をおかけしたかと思えます。その点、事務局を代表しまして御礼申し上げます。ありがとうございます。そして津川先生、本当にありがとうございました。

17日に県北地区の研究授業がありまして、そちらの方にも顔を出させていただいたのですが、黒板に1文字も書かない斬新な授業を見て勉強してきました。今日の授業は本当に授業らしい授業と言いますか、私は古い人間なのでそのような印象を受けました。

先生の話の中に、発問と指示で組み立てるという話がありましたけれども、今日の授業を見ながら、発問が非常に大事だなと思いながら見させていただきました。例えば、今日の授業であれば、横手城南の先生からもありましたけれども、黒板に問い1から問い4まで書かれたわけですが、もし問い4を先にやったら、他の問いはどういう扱いになったのか、もしかすればもう少し深めることができたのではないかと、そのように考えながら見させていただきました。ただ、授業が終わった段階で板書を見たら今日やったことがわかるように、というお話も先生からありました。その点においては、非常にわかりやすく生徒も扱いやすい内容であつたのかなと思います。また、協議の視点ですが、通貨は生徒たちの手元にある教材ということにもなるので、抽象度の高い内容ということですが、持っていく方によっては非常に具体的な内容にもなり得る単元だと思います。そういったところでは生徒たちの興味・関心をどうやって発問で引き立てるかというのは非常に大事になってきます。自分はまだこの単元を扱う前の段階ですので、自分がこの単元を扱うことになった際に、今日先生からいただいた教えを活かしながら授業を進めていきたいなと思っ

ております。先生、本当にありがとうございました。

加藤：由利工業高校から参りました加藤と申します。普段他の先生の公共の授業を見る機会がなかなかありませんので、今日は久しぶりに公共の授業を見させていただいて、私自身すごく勉強になりました。ありがとうございました。最後に津川先生が1000円札は硬貨になるのかという問いかけに、生徒からキャッシュレス化で硬貨にはならないという答えが出てきたのが印象的でした。津川先生が生徒と一緒にやってみようという姿勢で授業されていて、それが生徒に伝わり自分なりの答えを出して、最終的には将来の話に対してもさらっと自分たちで予想を立てる姿を見ることができたので、本時の目標、評価の観点に挙げられているもの、貨幣について関心を持ち、意欲的に学習に取り組むとか、論理的に思考し判断し表現することができるといった目標は達成されたと思います。私自身は工業科で実学的なこととか、どうやったら選挙に行くのかとか、あとは生きる知識に集中してしまっていて、考える力や姿勢はまだ意識して授業できていないと思ったので、そこは反省する点で勉強になりました。今日はありがとうございました。

佐藤：角館高校の佐藤陸斗です。専門は公民の倫理になります。私も公共の授業を見るという機会がなくて、自分のやり方以外の授業を見る機会がなかったのもとてもいい経験になりました。特に、発問と指示というお話がありましたけれども、発問によって生徒たちと本当に対話になっていたことが印象的でした。この主体的・対話的、深い学びと今言われている中で、生徒の意見を拾いながら授業が進む感じがとても印象的で、私の授業の中にもぜひ発問の工夫によって対話を増やすところぜひ取り入れたいと思いました。私は黒板をあまり使わないタイプなので、あの黒板の綺麗さを学ばなければいけないと思いました。各班のまとめを書いたマグネットシートを張っていましたが、物理的な目に見える形のものをを使うことによる授業の分かりやすさがあるなと思いました。質問ですけれども、生徒たちは金本位制についてはどの程度理解しているのでしょうか。

授業者：まだ授業でやってないので、どの程度理解しているかは分かりません。次の時間にやります。

佐藤：もしかしたら硬貨や紙幣の話とか、最初の発問のあたりでも金本位制の知識を最初に固めてしまった方が生徒たちは考えやすかったのかなと思いました。この協議の視点に繋がってくるかと思い質問いたしました。私からは以上です。ありがとうございました。

泉田：大曲農業高校の泉田です。今日は非常に楽しく学ばせていただきました。津川先生どうもありがとうございました。授業の感想としましては、最初に不換紙幣・兌換紙幣の話から入ってきたところに驚きました。私は日本史を担当していますが、明治時代に入ってから不換紙幣や兌換紙幣の説明、日本銀行の設立の部分はものすごく熱量が必要で、説明がすごく難しくできれば避けたいぐらいのところですよ。先生の授業がどのような展開になる

のかワクワクしながらお話を聞いていましたが、生徒がスムーズに授業に入っていくのを見て、導入としてこういう使い方があることを改めて勉強になりました。まず生徒にお金について興味を持ってもらって、お金とはどういうものかを突き詰めていく姿勢に面白さを感じました。今まで自分が固い思考の中で授業していたことを反省するばかりで、本当に大変勉強させていただきました。ありがとうございました。

高橋：大曲高校の高橋です。津川先生、ありがとうございました。まず主題が社会的な見方、考え方を働かせるための指導の工夫なので、答えのないものに取り組んで考えることが、生徒がこれから社会に出て生きていく上で、答えのないものにチャレンジしていくような場面で、今日のような経験が生きてくるんでないかなと思いました。一つ、本時の目標ですが、通貨の機能と構造を理解するとなった時に、例えば構造を考察するとか考えるだけでもよかったのではないかなと思いました。通貨の構造が何を指すのか、先生の指導案を作る段階でのお考え等伺いできればと思いました。よろしくお願いします。

授業者：指導案には機能と構造という言葉を使いましたが、生徒にはその言葉を使っていません。板書には役割と仕組みと書いてあって、機能は働きですから、それはつまり役割のことで、役割は4つあります。構造の方は兌換紙幣・不換紙幣ということと、モノとしての紙幣と硬貨、両方含めてだと自分では思ってやっていました。

斎藤：男鹿工業高校の斎藤です。津川先生、今日はありがとうございました。私も若い頃から何度かこの会に出席してその度に津川先生と何度かご一緒させていただいて、いつも豊かな経験に裏打ちされたお話がすごく勉強になっています。今日は、先生も生徒と一緒に課題を追求するような斬新な授業で、本当に私もとても勉強になりました。それで、貨幣価値や物価など理系的な要素が強い内容だったのかなと思いました。けれども、生徒たちを見ていて、とにかく一生懸命考えている様子が印象的でした。今回は理系クラスでの授業でしたけど、先生が文系クラスでこの同じ内容を実践されたことはありますか。

授業者：今年は理系のクラスしか持っていません。

斎藤：はい、ありがとうございます。文系クラスの生徒であればどのような反応だったのか興味を湧いたところでした。協議の視点ということでは、抽象度が高く正解がないことに生徒たちが一生懸命に取り組んでいました。また、先生も面白い授業ということを最初におっしゃっていましたが、先生と生徒と一緒に授業を作り上げる、授業の原点を見させていただいたような気がしました。また、アナログな授業とおっしゃいましたが、終わった時に本時の内容が分かる板書は、私も本当にその通りだなと思いました。AIを使ってもいいよってアドバイスされた時に、全てを信じてはいけないとお話しされていましたが、デジタルネイティブ世代に対してだからこそ、このようなアドバイスは大事だと思います。本時の内容が分かる板書は、初任研の頃から言われていたことで、本当に原点



を思い出す素晴らしい1日になりました。ありがとうございました。

佐々木：秋田北高校の佐々木です。津川先生、ありがとうございました。授業についてですが、抽象的で答えの出ないもの問いについて、生徒は興味を持って調べ、既存の知識と合わせながら解答を出しているところを見て、私はこの最後の協議の視点の両面について成功している授業だと感じました。なぜ 1000 円を硬貨にしないのかという先生の問いかけによって、もう 1 回生徒の中に落とし込まれて、結論を自分なりに出している姿を見て大変参考になりました。私もチャレンジしてみたいなと思いました。先生、どうもありがとうございました。

鈴木：新屋高校の鈴木です。津川先生、今日は本当にありがとうございました。本当に完成度の高い授業で、問いの立て方がとても参考になりました。とても深い主発問で、本当に思考をさせるいい発問だなと思いました。身近な話題で、生徒のやらされている感じもなく、素直に考えたいという気持ちが強く出ている授業だと思いました。あと AI の活用は、この年代の人たちにとってもつけるべき力だと思っています。今までは多くのサイトを見て調べなければいけないところを、AI では簡単に調べられますが、その妥当性とか、どこが適切なのかを班で話し合っていたので、思考力もついていると思いました。以上です。ありがとうございました。

司会：ここで意見交換に入りたいと思います。協議の視点で、正解のない答えを探す活動が学習効果のある妥当なものであったかとあります。先生方が日々の授業の中でこの点について、具体的に何か工夫されていることなどございましたらお教え願えたらと思います。

授業者：はい。今日の協議の視点の 2 つ目ですが、この指導案では最後の活動が遊びのようになってしまうのではないかと思い書いたものです。授業内容を詰めていくうちに見通しは立ちましたが、ここに書いたのは、最初はそういう理由でした。

司会：もしありましたら。はい。実際に実践されている先生はいらっしゃいますか。

佐藤：角館高校の佐藤です。この視点 2 については、自分の専門が倫理なので、生き方とかになると常に正解がない質問を生徒に投げかけることになるので、ここに関して自分はあまり考えたことがありません。確かに政治経済の分野であれば、学問的には経済学的、政治学的な正解があるなと思いました。例えばお金はなぜ大事なのか、そういうところにも繋がる内容だと思うので、この最後の活動は非常に学習効果があったと思いました。

正解のない質問を考えるのは、価値とかそういうもの考えるとところに繋がるのかなと自分は考えて倫理の授業をやっているので、答えのないことを一緒に考えながら進めるのは、生徒と先生と一緒に考える対話にもなるし、正解のない答えを探すとは非常に思考力も高まる価値のあるものだと思います。自分はよく正解のない質問を生徒に投げかけて一

緒に悩んでいます。

泉田：以前、研究授業で国際紛争や地域紛争の話を1時間取り上げて、問いかけの1つとして、道徳関連で何ができるかだっただけで考えたのが、安い銃があるから戦争が多いのか、それとも人が悪いから戦争が多いのか、人なのか銃なのかというところを考えさせてみました。その時は最後タブレットに表を作成しておいて、自分の出席番号のところに全員の感想を入力させました。全員の感想を一覧で見られるようにしたことで、自分の考えと他人の考えを比較できるようになり、とても有効であったと思います。

記録：私は日本史を担当していますが、歴史の事業の場合は正解のない問いを立てやすく、自分が歴史の当事者の立場であったらどのような選択をするのかを投げかけると、学年によって本当に様々な答えが出てきて、教師も新しい視点に気づかせてもらえます。

司会：例えば、この正解のない問いを立てると、私の場合は授業時間通りに終わらせることを意識するので、正直生徒にバトンを渡すのが怖いところもあります。今日の授業はチャレンジングだと思いました。最後の方で様々な答えが出ていましたが、先生の場合は落としどころとして、これを言おうと思って問いを立てているのですか。

授業者：今日は先生がおっしゃる通り、本当にチャレンジです。どうなるか分かりませんでした。だから、少し不安を持ちながらやりました。

司会：そうですね。自分も高教研で授業をしたことはありますが、この時間でここを言う、とデザインして授業した記憶があるので、実はそういう立場で見えていました。津川先生は誠実に授業をされていて素晴らしかったです。

授業者：先生方で、もしご存知の方いたら教えていただきたいのですが、伏線というわけではないですけど、私は本時の答えを今まで本で読んだことも、誰かが言っているのも聞いたことないので、答えが出てこなくてもいいと思っていました。実はこの本に書いてあるという情報がありましたら教えていただきたいです。

司会：例えば先生が最後のところで、自分なりに調べたところあるとおっしゃっていましたが、先生の見つけた答えは授業でお話しされたもの以外にもありますか。

授業者：もっと時間があれば調べられましたけど、本当にもあれだけです。

司会：ありがとうございました。先生方の色々な取り組みを伺わせていただくことができ、大変有意義であったと思っております。では、ここで協議の方は終了したいと思います。それでは、西仙北高校の栗原渉先生から指導助言をいただきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いします。

指導助言：はい、いろいろと先生方からお1人ずつ、非常に鋭い感想をいただいているので、私なりに今日の授業を見させていただいての感想、それともう1つは金融ですから、この新学習指導要領で金融教育ということが言われていますので、この2点をお話しさせてい

ただきたいと思います。

まずは、5年ぶりにこのような高教研の授業を久しぶりに見させていただいてよかったというのが本音です。今回、津川先生には本当にお忙しいなか、まさにテーマ学習を設定していただきまして、本当にありがとうございました。

今までは1つの学校で、日本史・世界史・地理・公民の授業を実施していたため、1つの学校に負担がかかっていました。様々な授業を見ることができる良さもありましたが、今回このように三校に分かれて実施してみて、この良さを生かすか、今後はいろいろな取り組みがあると思いますので、検討が必要なのではと思います。

さて今日の授業についてですが、私も政経の授業をやってきましたので、この金融政策や財政政策、ここは経済の2本柱になるので、生徒たちにしっかりと教え、そして考えてもらおうと思っています。結果的にはこれが主権者教育につながる大事な部分だと考えています。今回、津川先生が探究型で答えのないものを考えさせる授業は、間接的ではあるけれども、お金のあり方や金融のあり方をめぐって、結果的には政治にどう関わっていくのかなど、主権者教育にも繋がっていくものだと思います。視点を変えればキャリア教育ですから、このキャリア教育についてもしっかり新学習指導要領で公民が果たす役割が打ち出されていますので重要な部分だと思います。そこに今回当ててもらったのは、非常によかったなと思います。また、面白かった点で言いますと、先生の教材観とか指導観、ここが非常に私はインパクトがあったなと思っております。

まさに今の電子マネーの普及やキャッシュレス化のなかで、この現金通貨の位置付け、それも紙幣と硬貨という原点に帰るのは、新しい視点を持っている教材観だと思いました。あと指導観、特に注目したのは、先生が教科書のレベルを超えて探究したい、そして生徒と共に探究する姿勢は面白いなと思いました。生徒の考えが非常に柔軟で、横手高校生はさすがだと思って見させてもらいました。各班の考えをまとめたマグネットシートを黒板に貼り、それを先生が評価していましたが、時間があれば、生徒にしっかりと発言させて、それを相互評価するとか、生徒のなかで1番を決めるというのも面白かったのかなと思います。

例えば私が探究型の授業をやるとして考えたときに、そもそも金融は必要なものなのか、あるいは今、起業と言われていますが、新しく起業した人はどのような資金調達をしているのか、あるいはキャッシュレス決済のメリット・デメリット、あるいは理想の比率はどれぐらいなのか、このような問いも立てられると思います。あるいはこれから先、決済の方法がどう変わると思うか、日本では電子マネーとキャッシュレスについてどの程度の比率を考えているのか、そういったことを生徒に推測させるのも面白いのかなと思います。

よくテレビで日銀の植田総裁が毎回出てきますが、あまり本音は言いません。実は色々

考えはあると思いますので、そういう総裁の考えを推測させるのも面白いと思います。以前、政経の授業でどうすれば金融は安定するのか生徒に話をさせたら、泥沼にはまったことがありました。自分でも答えが分からなかったのですが、難しいからこそ生徒は食いついてくるので、答えのないところを添えてあげるのは面白かったなと思います。

もう1点、金融教育ということと言えますと、新学習指導要領では、自立した社会人になるためにはしっかりと金融の部分をするようになっていきます。その際に、いわゆるカリキュラムマネジメントではありませんが、家庭科の視点と公民の視点、両方を必要としていると思います。家庭科だと、可処分所得のなかでどうライフプランを立てるのか、例えばアパート借りて、給料もらったらそれでどのように生活するのか、このように実生活を見ていくのは家庭科かもしれません。でも、公共の方は、紙幣や金融の根本にメスを入れていくのも面白いと思います。この金融教育ということで、日本は遅れていると話しました。さらに、今は様々な金融に関する被害もありますし、その資金、資産をどう運用するか、あとは、その成年年齢の引き下げによってトラブルも色々起きていますが、それをどう防止するか、あとライフプランですね。今盛んに投資が行われています。様々な新しい金融商品も出ていますから、賢い消費者になるために、賢い社会人になるためにも、この金融教育をやっていくべきだと思います。ここもおそらく正解はないので、正しい知識を教えながら考えさせるということが必要だと思います。今後、先生方にも金融教育をどうしたらいいんだろうかと、ここを家庭科と連携しながらぜひやっていただければ、これから悪質な商法に引っかからない、あるいは今だったら加害者になるってこともありますから、そうならないように育てるためにも、ここはしっかりやっていただきたいなと思います。

あまり指導助言になりませんでしたけども、先生方が今日お話しされたことを、ぜひ共有しながら、この後、この地歴公民部会の授業改善、この世の中で生きる授業のあり方ということを探求していければなと思います。

最後に、改めまして、津川先生には、大変お忙しい中、このように準備をしていただきまして、良い授業を見させていただきました。本当にありがとうございました。

司会：ありがとうございました。はい。これを持ちまして令和6年度高教研の授業研修会を終わりたいと思います。本日は誠にありがとうございました。お疲れ様でした。

# 高等学校中堅教諭等資質向上研修を終えて

英語科 奥羽屋 景子

## I 校内研修

管理職の先生方を始めとして研修主任、学年主任、英語科主任などの先生方に御協力いただいた。研修という枠で定められた時間外でも学ぶことは大いにあった。諸先生方の授業観や生徒及び保護者への関わり方に関する指導観は、日常の情報交換や意見交換を通して感じ取ることができた。また普段の先生方の言葉遣いや行動にも滲み出ていたようにも思う。自分次第でこんなにも普段の職員室での会話や、会議での諸先生方の発言が「助言」になったことはない。これまで抱えてきた疑問や抱えてきた問題への解決の糸口を、中堅教員研修という節目に当たったこともあり、懸命に探していたからだろう。お陰様で大いに視野が広がり、思考が深まったと感じている。今年度多くの先生から御指導いただいたことを今後の指導に生かしていきたい。

## II 校外研修

### 1 共通研修【令和6年6月25日(火)】【令和6年10月17日(火)】

ホームルーム経営だけでなく学年や学校、また若手教員への助言など、より広い視野から自らの業務を捉える機会となった。学校組織のなかでリーダーシップを発揮し、中堅教諭として今後期待される役割について考えさせられた。

### 2 教科指導等研修【令和6年8月2日(水)】【令和6年9月5日(木)】

総合教育センターにおける上記の研修に加えて、秋田県立秋田中央高等学校において研究授業(9月5日)を行った。指導案は別ページを参照。

### 3 生徒指導等研修【令和6年9月19日(木)】

学校の教育活動全体を通して、キャリア教育や道德教育の視点を持ち、今行っている取組に意味づけをすることの大切さを感じた。またやりたいことがわからないと悩む生徒への関わり方などを学んだ。

## III 選択研修

詳細は別ページを参照。

## IV 特定課題研究

詳細は別ページを参照。

## V 研修を終えて

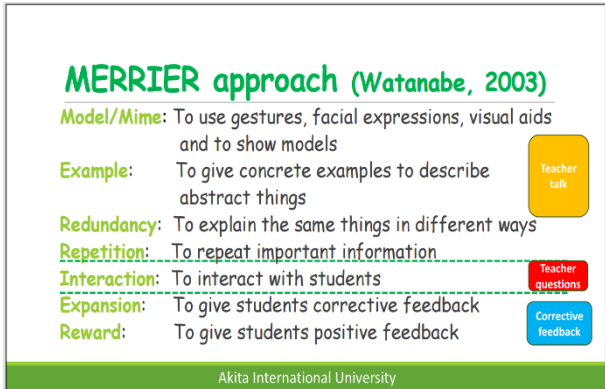
あつという間の10年であった。自分の視野の狭さや経験不足を反省し、中堅教諭として今後の学校経営に貢献できるよう努めたい。最後に、校務で多忙な中、中堅教諭等資質向上研修に御協力いただいたすべての先生方に感謝申し上げたい。

## 選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	横手高等学校（全）	職・氏名	教諭 奥蒔屋景子
研 修 先	秋田県立近代美術館		
研 修 期 間	令和 6 年 7 月 31 日（水）～ 令和 6 年 8 月 1 日（木）		
<p>1 研修の概要</p> <p>1 日目（7月31日）</p> <p>10：00 - 10：20 オリエンテーション（自己紹介、日程説明）</p> <p>10：20 - 11：10 美術館の仕事について（講話）</p> <p>11：20 - 12：00 施設・設備・展示室の見学</p> <p>13：00 - 14：00 「みんなのキンビ」プロジェクトについて</p> <p>14：10 - 15：40 受付・監視業務補助体験</p> <p>15：50 - 16：00 研修のまとめ</p> <p>2 日目（8月1日）</p> <p>10：00 - 12：00 広報活動と展示について</p> <p>13：00 - 15：00 受付・監視業務</p> <p>15：10 - 16：00 研修のまとめ、協議</p> <p>2 研修の成果（今後への生かし方も含むこと）</p> <p>ノーマライゼーション、インクルーシブなどの時代の流れの中で、令和4年度に博物館法が改訂され、博物館の役割が増した。近代美術館では「みんなのキンビプロジェクト」という新たなプロジェクトを立ち上げていた。高齢者、障害者、不登校の生徒など社会から孤立しがちな人々をも取り込み、人と人が出会う場を作ることを目的としていた。驚いたのは、多様な機関との協働により視覚障害者が絵を楽しむためのツールを製作していたり、言葉による鑑賞の場を創出したりしていることであった。この他、認知症当事者を含む高齢者とのアート鑑賞プログラムも実施されていた。高齢者が写実的な絵画を見て昔を懐かしんだり、抽象画を見て自身の内面と向き合ったりしたというエピソードを聞いて、絵のもつ可能性や力を思わずにはいられなかった。人生を長く生きてきた高齢者であれば、絵画から呼び覚まされる感情やマインドは豊かなはずであり、絵画のもつ普遍性を考える機会となった。</p> <p>2日目に「誰もが楽しめるキンビを作るには？」というテーマで協議を行った。私が考えたのは「授業×キンビ」で、高校の英語の授業と近代美術館をどのように掛け合わせるかであった。生徒は小田野直武をはじめとする秋田ゆかりの作家や作品も知らないのが現状であろう。近代美術館では「キンビ・アートカード」という所蔵作品の中から選ばれた50点の名品のはがきサイズのアートカードが製作されており、是非とも授業で使ってみたいと思った。例えば「自分で絵画の企画展をやってみよう」という活動の場合、テーマを自分で設定し、それに基づいて作品を数点選び、客に見立てた他者に企画展の意図や、なぜその絵を選んだかなどを英語で説明させ合うことが考えられる。この活動により、おのずと秋田ゆかりの作家の絵画に触れることもできるだろう。扱う単元が芸術系の場合、是非ともこのカードを活用し、英語による自己表現活動のみならず世界に誇る秋田出身の画家について、生徒が高校卒業前に知る機会としたい。</p> <p>「みんなのキンビ」プロジェクトに関わるスタッフの方々の熱量と本気さに感心した。高校というごくごく狭い世界で生活する私は、高齢者、障害者、妊婦などの方々に思いを致すことなく過ごしていたことに気付かされた。今回の研修で学んださまざまな立場にある人々への配慮を忘れず、より広い視野から授業を行うことができる教師になりたいと思った。この2日間の研修を通じて高い熱量をもって「みんなのキンビプロジェクト」に携わっていらっしゃるスタッフの方々と触れ合う機会をいただいたことは大変貴重であった。</p>			

## 特 定 課 題 研 究 レ ポ ー ト

所 属 校	横手高等学校	職・氏名	教諭・奥羽屋景子
研究内容	A：本県の教育課題に関する研究 B：マネジメントに関する研究 C：生徒指導に関する研究 D：教科指導に関する研究 E：道徳教育に関する研究 F：特別活動に関する研究 G：総合的な学習の時間に関する研究 H：特別支援教育に関する研究 I：その他 (選択したものに○を付けること)		
研究テーマ	Spoken Interactionのあり方		
<p>1 研究の概要</p> <p>(1) テーマ決定の経緯</p> <p>Spoken Interactionは私の悩みの種だった。授業で英語で生徒に質問しても、生徒の反応は「日本語でもいいですか?」、または英語が出てこずに沈黙が続くなど、生徒からうまく英語を引き出せず、半ば諦めていた。文法の説明もある程度のパターンプラクティスの大切さもわかっているが、それに終始する授業に飽き飽きしていた。生徒からフレーズでも単語でもいいから英語を引き出したいと切実に思った。そのような中、国際教養大学教職大学院で研修する機会に恵まれ、生徒から英語を引き出すための理論や方法を学び (MERRIER approach)、具体的な教師の働きかけや支援の仕方を身に付けることができた。</p> <p>大学院修了後、再び横手高校に勤務することになり、大学院で学んだことを日々の授業に応用することで、大学院に行く前よりも、少しでもCommunicativeな授業を行うことに挑戦してみたいと思った。そして生徒そして指導者である私自身に大学院に行く以前と比べてどのような変化が現れたかを検証してみたいと考え、以上のようなテーマ設定に至った。</p> <p>(2) メリアアプローチについて</p> <p>生徒の英語による発話を引き出すための「メリアアプローチ (Watanabe, 2003)」という手法を取り入れた (右図参照)。メリアアプローチとは7つの方法で構成され、生徒のリスニング力向上、またコミュニケーション能力の土台形成、加えて指導者側が生徒に大量の理解可能なインプットを与えられ、そしてやり取りを増やすこと可能になるなど、英語を英語で教える上で有効であるとされている手法である。7つの方法とは Model/Mime, Example, Redundancy, Repetition, Interaction, Expansion, Reward で、それぞれの頭文字をとって MERRIER アプローチとされている (右図参照) Model/Mime とはジェスチャー、表情、視覚教材を用いて生徒の理解を促したり、実際に例を実演したりすることで生徒の活動に取り組みやすくしたりすることである。Example は抽象的なことへの理解を助けるために具体例を出すこと、Redundancy とは言い換えを含め、1つの事柄をさまざまな角度から説明することで生徒の理解を助けること、Repetition とは重要な情報を繰り返すこと、Interaction とは生徒に質問したりして生徒とやり取りすること、Expansion とは生徒からの返答に対して指導者が正しいフィードバックを返すことで、例えば、生徒が英語にできずに困っている場合は指導者が英語にして支援したり、生徒が日本語で答えた場合でも英語で返答したり、また文法上の誤りが含まれた発話であれば、その箇所を訂正してあえて繰り返したり、このほか生徒の英語による発話内容に対して情報を補足して返答し生徒へのインプットを増やしたりとバリエーションが豊富である。最後のReward とは生徒を褒めることである。私はこのメリアアプローチを大学院での授業を通して初めて知り、非常に感銘を受けた。この方法は生徒にとって効果があるだけでなく、生徒からの日本語発話、また英語が出てこない生徒への処し方がわからず悩んでいた私にとっても非常に有効で、かつ具体的であり、横手高校に帰ってから実践してみたいと思っていた。</p> <p>(3) 横手高校での授業</p> <p>導入、展開、まとめの3つに分けられ、主にメリアアプローチを活用しているのは「導入」と「まとめ」である。「導入」では何枚かの写真を見せて英語で本文に関する teacher talk を行うことで、生徒に理解可能な英語のインプットを与えつつ、本文の内容理解を促すことを心掛けている。「まとめ」ではキーワードを与え、それを用いて本文の内容を再生させるリテリング活動を行っている。生徒の日本語発話は教員が英語に直し、または文ではなくフレーズで答えた場合は教員が文章に補強して言い換えている。このやりとりを通して、すべての生徒に英語発話の機会を与え、たとえ英語が苦手な生徒であってもペアで活動することで不安なく英語を話すことが可能になる。一方で英語が得意な生徒にとっては教員が生徒の</p>			



英語を言い換えることでさまざまな表現を知ることができ、さらなる英語のインプットの機会になると考えている。



導入の teacher talk の様子



まとめのリテリング活動の様子

## 2 成果と課題

授業の成果を検証するため、英語コミュニケーションⅠの授業の3クラスで1月に授業アンケートを実施し、85人/105人の生徒が回答した。回答率は約80%であった（添付資料参照）。

### 【結果】

導入に関しては、ほぼ100%の生徒が肯定的に捉えており、その理由は「教科書の内容理解につながる」が大半を占めた。メリアアプローチのうちの Model/Mime は英語で本文の内容を理解させる上でかなり有効であると言える。教員の英語による teacher talk が「英語のインプットになる」と考えている生徒は全体の約27%に留まってはいるものの、Model/Mime により教員の英語を通して、本文の内容を理解し、本文の内容に関心をもつことにつながっているようだ。まとめのリテリング活動は約87%の生徒が肯定的に捉えており、「英作文・英語を話す力があがるから」という理由が最も多く、次が「英語を話す機会になる、他の人の言いまわし・表現が参考になる」という項目が多かった。「教師が言いたいことを英語にしたり、内容を膨らませて言い換えてくれる」は30%の生徒が選んだのみにとどまった。リテリング活動に対する否定的な理由として「特に学習効果を感じない」「教科書の言い換えが難しい」「この活動をする意味がわからない。表現の言い換え力を鍛えるならライティングの方が良いと思う」という意見が寄せられた。

### 【分析】

導入に関してはほぼ全員の生徒が肯定的に捉えており、本文の概要を把握させ、かつ興味関心をもたせる上で機能しているため、今後も継続してよいだろう。一方でリテリング活動は課題が見られる。少数意見ではあるが「難しい」、「無意味」、または「本文の言い換え力を鍛えるならリテリングよりライティングをさせた方がいい」などの声が寄せられた。またその理由として「自分の考えを英語にできないから」はごく少数で、「本文の言い換え表現を思いつけないから」が多かったのが予想外であった。

### 【課題】

以上のことから、リテリング活動のあり方には工夫の余地がある。

#### 「言い換えられない」

→1つはどのように本文の表現をそのまま使わずに言い換え表現を使わせるかである。方策としてはキーワードを本文とは異なる単語で与えることが考えられる。現在は本文のまま与えているが今後は少しずつコントロールしてみたい。2つめは「中学生に伝わるように」など対象を明確にすることだ。中学生に伝えるためには自ずと語彙レベルを下げざるを得ない。これらの工夫により自分の知りうる単語を総動員して、本文の内容を再構築させてみたい。また使えそうな言い換え表現は黒板に書いて生徒に提示してもよいと思う。

#### 「ライティングの方がいい」

→この活動は即興で英語を発話させ、やりとりする楽しさを味わうことも目的としているため、各パートで口頭でリテリングさせ、他者の表現などを取り込んだ後に最後ライティングでまとめるのがよいと思う。このほか、口頭でリテリングさせた後に即興で教員からプラスαの関連質問をすることで、やりとりの力を鍛えるスピーキング活動としての意義をもたせることも考えられる。

### 【感想】

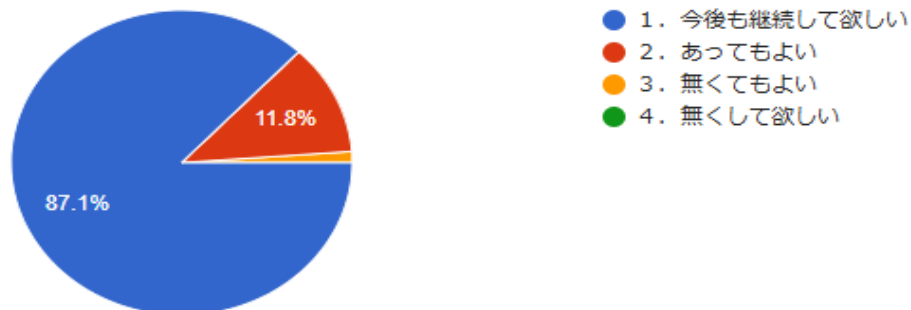
英語で行われる授業と言語活動の重要性が叫ばれて久しいが、現実的には文法や語法などの言語項目の日本語による説明は大学入試を考えるとやはり必要だと感じている。しかしそれに終始しては言語習得は実現しない。言語項目の説明はプリントにするなどして、授業ではやはり言語を「習得」させるという視点をもって授業を組み立てるべきだと思う。教員による十分な英語のインプット、間違いを恐れずに英語を使える場面の確保、そして安心してたくさん間違える環境の整備が必要不可欠である。大学受験における学力保障に責任をもちつつも、まずは教師自身が英語を使うことで生徒も英語を話しやすい雰囲気を作り、たくさん英語の間違いを積み重ねながら、言語を「習得」させる過程を大切にしていきたい。



【添付資料 アンケート結果】

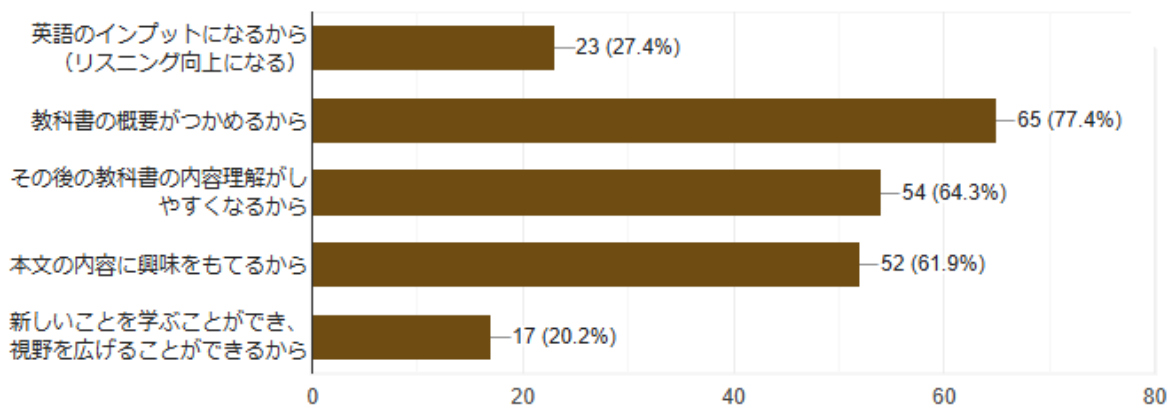
1. 各パートのスライド（写真など）を用いた英語による導入について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

85 件の回答



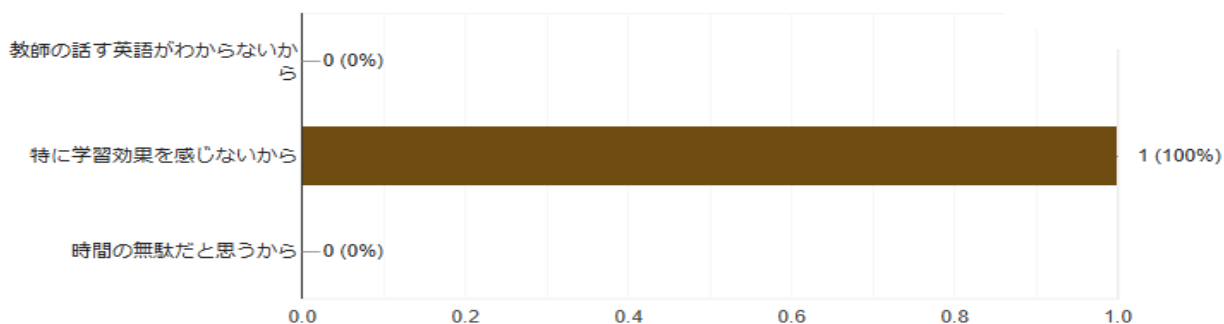
2. 1で、1（今後も継続して欲しい）と2（あってもよい）を選択した人のみ回答してください。そう考える理由として、当てはまるものすべてを選んでください。

84 件の回答



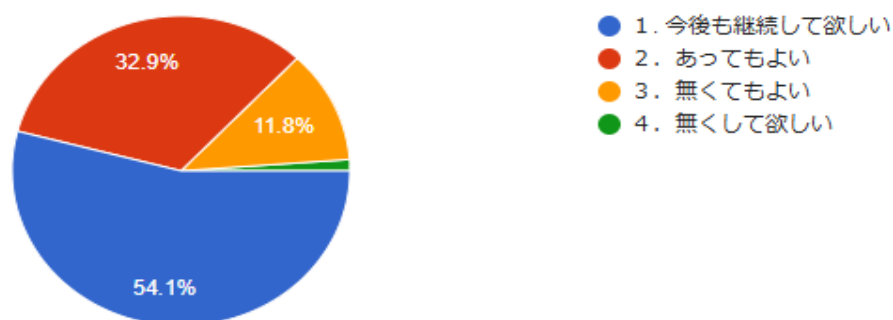
3. 1で3（無くてもよい）と4（無くして欲しい）を選んだ人のみ回答してください。そう考える理由として、当てはまるものすべてを選んでください。

1 件の回答



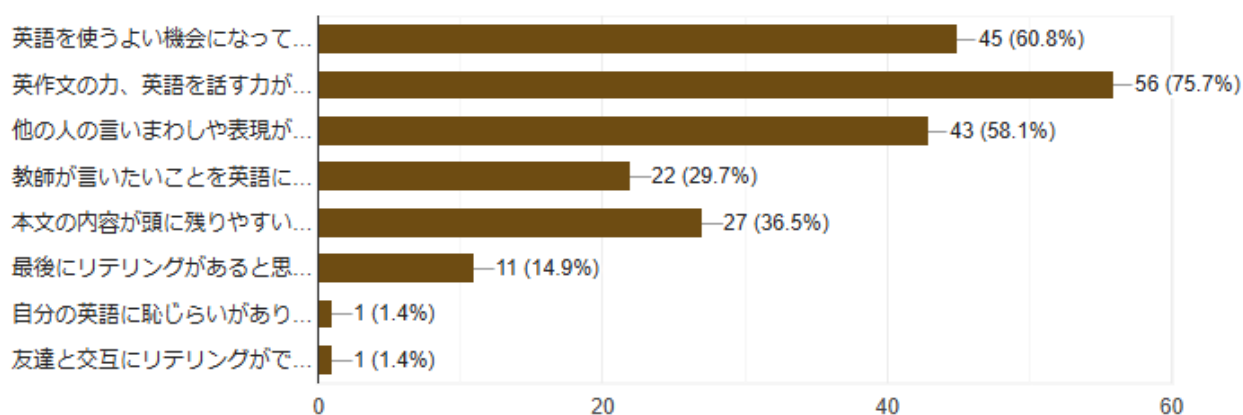
4. 本文の内容理解が終わった後の英語によるリテリング活動について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

85件の回答



5. 4で1（今後も継続して欲しい）と2（あってもよい）を選んだ人のみ回答してください。そう考える理由として、あてはまるものすべてを選んでください。

74件の回答



※上記の回答項目

英語を使う良い機会になっているから

英作文の力、英語を話す力があがる気がするから

他の人の言いまわしや表現が参考になるから

教師が言いたいことを英語にしてくれたり、内容を膨らまして英語で言い換えてくれるから

本文の内容が頭に残りやすいから

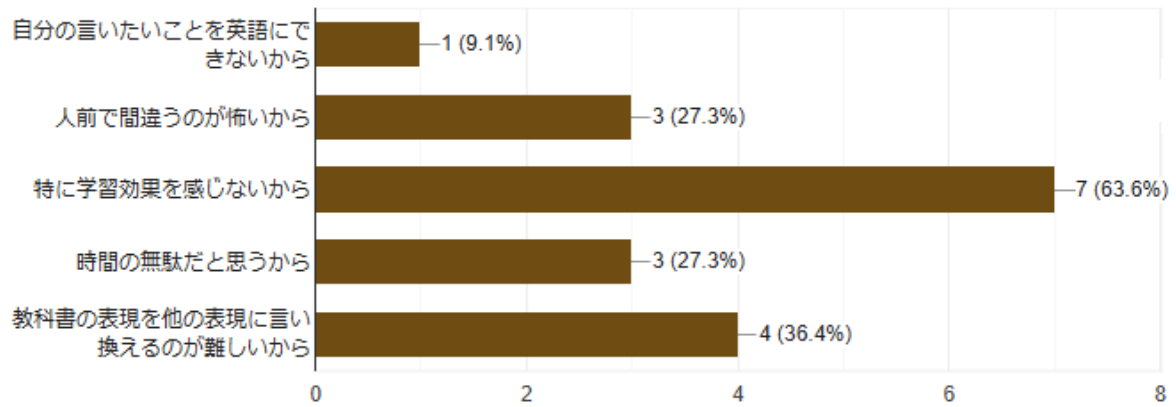
最後にリテリングがあると思って本文を読むと、英語が頭に残りやすいから

その他（生徒による自由記述）

- ・自分の英語に恥じらいがあり、なかなか喋る機会がないため、ここだと間違っても良いという安心感のもと、気軽に英語を使うことができる
- ・友達と交互にリテリングができる時間は唯一、英コミの時間でコミュニケーションらしい感じがするから

6. 4で3（無くてもよい）と4（無くして欲しい）を選んだ人のみ回答してください。そう考える理由として、あてはまるものすべてを選んでください。

11件の回答



# 教職 5 年目研修講座報告

濱田風香

## 1 自校の生徒の実態

学習に向かう意欲は概ね高い。複雑な事象や概念、抽象的な事象を学ぶ際にも前向きに取り組み、理解しようと努めている。一方で日々の学習では地歴公民科目まで復習の手が回らないことが多いようで、既習事項の定着には課題がある。また、各テストの度数分布を分析すると広がりがあり、年々下位層が厚くなっている傾向にある。進研模試でいうと SS60 の層が過去 5 年の中で最も薄くなっており、SS50 の層に流れている。また、SS40 以下の生徒が増加傾向にある。

### 歴史総合(1年生)

全体の前でも物怖じせずに発言できる生徒が多く、教員対クラス全体の対話で授業を進めることができる。一方で思いつきでの発言もやや多く、複数の資料を用いて情報を精査すること、一般化することなどには課題がある。

### 日本史探究(2/3年生)

1 年生と比較すると落ち着きがあり、じっくりと考え、対話も丁寧に行うことができる。選択科目であることもあり、授業に対して高い意欲をもって取り組んでいる。文化史にやや苦手意識があるようで、模試の結果を見ると得点率が落ち込む傾向にある。

## 2 自校の生徒の実態を踏まえた授業展開の工夫

授業の冒頭で必ず前時の復習を一問一答形式で行うことにしている。また、復習もなるべく本時との関連をもつような内容で構成することを心がけている。日本史の理解にはいつ、だれが、どのような目的で、といった情報を整理することが重要であるため、例えば以前の学習内容で類似のものがある場合は比較して差異をおさえるように努めている。

### 歴史総合(1年生)

中学校までの既習事項と結びつけながら、各地域のつながりや章ごとのテーマ(近代化や大衆化、グローバル化など)との関連付けを心がけている。個別の事象から一般化する際は、情報の根拠を複数の資料に求めるようにして、知識と資料から読み取った内容を関連付けて理解する、思考する力を高めたい。

### 日本史探究(2/3年生)

生徒の理解度には幅があるため、授業ではペアワークも用いながら、どの生徒も授業内容を理解できるように留意している。2 年生の理系クラスは 2 単位で進度に不安があるため、スピーディーな授業展開を心がけている。学習内容の理解がおろそかにならないように、学習課題につながる問い(小さな問い)から構成するようにしている。

3 年生には大学入試問題から短文論述問題を取りあげて個別添削を行っている。日本史に力を入れて取り組みたい生徒や個別試験に日本史がある大学を受験する生徒が、知識の整理や論理的思考力を伸ばすために取り組んでいる。現 3 年生が 2 年生の時の冬に開始した。

### 3 I期で明らかになった教科指導上の課題とその解決策

教科指導上の課題は生徒個々の理解度に差があることである。具体的には前時の学習とのつながりがもてない生徒や、複数の観点(政治、社会、経済など)で同時代を考察することを苦手としている生徒に対しそれらの見方にどう気付かせるかが課題であると考えられる。

各出来事や政策などの個別の事象が、ある程度の期間で区切った「まとめ」のうちどこに位置するのか、どのような因果関係があるのか、どのような影響を及ぼしたのか、を見えるようにすることで、上記の課題は解決すると考える。授業では取り扱う時代の全体像をおおまかにでもつかみ、細部にあたる「当時の状況」「人々の訴えること(立場の違いにも留意する)」「政府の対応」などを関連付けながら、時代に対する、より立体的な理解を促す。そして、「何を学んだのか」が分かるように、「本時の課題」もあえて「なぜ～」のような複雑な構造にせず、時代の経過と因果関係を生徒がまとめやすいような課題にすることで、力のある生徒も、歴史に苦手意識がある生徒も「課題に対応するように答えると本時の内容が理解できる」状態をめざした。

### 4 解決策を踏まえた授業改善における成果と課題

取り扱った内容は3年生文型の日本史探究の「自由民権運動」である。板垣退助らが政府内部での対立から参議を辞職した後、有司専制政治を批判して国会の開設をめざし、実現するまでの内容である。自由民権運動は「発生期」、運動が農民や都市の商工業者まで拡大した「発展期」、深刻なデフレや政府の弾圧により、暴力を伴った運動に変わった「激化期」、国会開設の時期が近づいて各政党が再び国会開設に向けて行動する「再結集期」の4区分が一般的とされる。本時では「激化期」に入る前までの内容を扱った。以下は教科指導上の課題を解決するために意識的に取り組んだ内容、成果、課題である。

○全体像の把握：「自由民権運動がなぜ広まったのか? =板垣退助らの提出した民選議院設立の建白書が新聞で報じられて人々がその動向に関心をもつようになったこと」、また「自由民権運動のゴールはどこか? =国会が開設される、国会が国家の中でどのような役割や権力をもつのか明記されること」の2点(スタートとゴール)と、ゴールを達成するまでの動向が視覚的に理解できるようにグラフのような形で示した。ただしグラフはあくまでイメージであり、数値化できるものではないという注意は強調して伝えた。

○本時の課題：「板垣退助らはどのような政治を目指し、行動したのか。政府はどのように対応したのか」として、過程を追って説明できるものにした。

○成果：全体像の把握、特に何のために板垣らが行動したのか、政府は民権派の行動に対してどのように対応したのかという点に関して、生徒は注意を払って授業を受けていたようである。生徒の授業プリントを見ると、全体像を把握するために用いたグラフと各事項を対応させているものもあった。

○課題：生徒の記入した授業プリントを見て、後から見て流れや因果関係が分かる授業プリントの構造になっているか、再検討する必要があると感じた。また、「探究」という科目の性質上、理想は自身の言葉で本時の課題に対するまとめを記入すべきであるし、その時間も確保すべきであるが、まとめを書くかどうかはもちろん、本時の課題を復習の材料にするかどうかとも生徒に委ねている点についても改めて考えたい。

## 令和6年度 相互授業参観記録

月・日・曜日	校時	クラス	教科	科目	授業者	参観者名
4/23(火)	5	11	英語	コミュニケーション I	奥羽屋 景子	佐藤 寿子
5/14(火)	4	25	理科	地学基礎	柿崎 仁志	岸 嘉之
生徒がスライドを見やすいような座席の工夫や活動しやすい環境づくりが為されていた。また、直近の地学に関するニュースを紹介しどう地学の内容と関連があるかを説明するなど生徒が科目に興味を持ってもらえるような仕掛けがあった。						
5/17(金)	5	12	MDS	M基(情)	煤賀 卓也	佐々木 重宏
振り返りをフォームで集計だけでなく、内容を共有することと同時に機能の確認を取り入れていた。						
5/23(木)	5	13	英語	コミュニケーション I	奥羽屋 景子	齊藤 千秋
生徒の理解を確認しながら英語で授業を進めていた。生徒の言語活動が活発に行われていた。						
5/28(火)	5	13	理科	生物基礎	高橋 里美	藤原 健
観察対象への教師の思い入れが生徒に伝わる導入で、生徒たちは主体的に観察実験にのめり込み、生徒たちの意欲が持続する授業でした。						
6/7(金)	2	16	英語	コミュニケーション I	齊藤 千秋	奥羽屋 景子
先生がオリジナルで作成した読み物を用いて、生徒に明確な目的を持たせてreading活動を行っていた。生徒は夢中になって活動していた。						
6/19(水)	2	26	数学	数学Ⅱ(三角関数)	大橋 俊文	藤原 健
個の作業、ペアワーク、全体への発表、等、様々な形態を織り交ぜて、(恐らく)下位層対策をしている点。生徒同士の質問や応答が活発にみられた。						
6/21(金)	2	12	英語	コミュニケーション I	齊藤 千秋	藤原 健
制限時間を設けたクイズ形式の仕掛けにより、始め消極的だった生徒もどんだのめり込んでいく変化がみられた。Jambordを純粋にホワイトボードとして用いる点はある意味斬新でした。						
6/25(火)	5	36	国語	論理国語	成田 陽香	岸 嘉之
導入のアクティビティが大変良いな、と思った。生徒たちが休み時間からスムーズに授業へ向かう姿勢づくりとして参考にしたい。今回は生徒たちが自分で意見をまとめ、それをグループ→全体という流れで共有する活動があったが、「今何をする時間か」という指示が明確であり生徒たちも良い流れの中で学習に集中できていた様子が見られた。						
6/27(木)	6	11	国語	言語文化	浅野 潤子	佐藤 寿子
6/27(木)	6	14	英語	コミュニケーション I	齊藤 千秋	加藤 華世
9/2(月)	5	13	英語	コミュニケーション I	奥羽屋 景子	藤原 健
奥羽屋先生が要所所でキーワードを強調したり、状況をかみ砕く支援を入れたりすることで、ほとんどの生徒たちは集中を切らすことなく、トーマス先生の香港訪問談に聞き入っていた。kahootによるクイズ形式の振り返りも盛り上がった。その後のライティングへの生徒の取りかかり姿勢の良さに驚かされた。						
9/3(火)	5	13	理科	生基	高橋 里美	藤原 健
目標とする分裂像の確認と探す時間を十分確保し、細かく個別指導をすることにより、驚異的な確率で各期の分裂像が見つけられていた。試料調製(固定・解離・染色)の完成度の高さにも驚かされた。						
9/2(月)	5	13	英語	コミュニケーション I	奥羽屋 景子	煤賀 卓也
トーマス先生の話で生徒を引きつけながら、重要なところを奥羽屋先生が確認したり繰り返したりしていたのがよかった。クイズで盛り上げるなど、生徒が楽しく授業を受けている様子がうかがえた。生徒が物怖じせずに積極的に表現できるようになってもらいたい。						
9/5(木)	2	33・34	理科	生物	高橋 里実	木村 留衣子
教員が教えない授業が定着している。生徒は教え合ったり、一人で集中して調べたりしているが、どちらも参観者に気づかないくらい集中しているし、楽しそうだった。生徒が先生を呼んだときも、先生の説明を聞くというより一緒に話し合っている様子だった。						
9/6(金)	3	14	国語	言語文化	高橋 奨	藤原 健
個人、ペア、グループ、全体が計画的に往還する学習活動の中で、生徒たちは自らの考えを表現し、深めているようだった。単元開始時と単元末での読み取りの変容を、生徒自身が自覚できる仕掛けも見事でした。						



月・日・曜日	校時	クラス	教科	科目	授業者	参観者名
10/29(火)	3	15	芸術	美術 I	小笠原 宏	岸 嘉之
<p>初めて高校美術の授業の様子を見せていただきました。三面図から立体を想像して形作るという題材が興味深く、自分も参加してみたいとワクワクさせられました。「底面に丸を描いて」など適宜生徒たちにヒントを与えながら活動させていたのが良かったと思います。生徒たちも活動の中で自然と集まり、ああでもないこうでもない議論を始めていたのは授業する身としては嬉しい生徒の反応だったと思います。教科横断という視点で、例えば化学の結晶構造の様子であったり、数学の積分と絡めて体積を求めたりすることも可能だと思いました。その際には学年を跨ぐことにはなりますが、その中でも生徒の交流が期待できそうです。ぜひコラボしてみたいです。</p>						
10/29(火)	3	15	芸術	美術 I	小笠原宏	木村 留衣子
<p>三面図、立体図と制作をいったりきたりすること、難度をあげていくことで実感を伴った理解になった。作業では集中し、相談するときははしてメリハリがついていた。</p>						
10/29(火)	3	15	芸術	美術 I	小笠原 宏	煤賀 卓也
<p>空間把握は個人差があるが、易しい立体図から扱い、実際に制作させることで、図形に対する感覚をつかませていた。最後に図が描きづらい立体を扱い、生徒の興味を喚起するとともに、解説を次時にしたことで生徒がより考える時間を与えていた。</p>						
10/29(火)	6	22	公民	公共	津川先生	煤賀 卓也
<p>地金から兌換紙幣、不換紙幣と説明を続ける中で、なぜ貨幣が人々に受け入れられているのかを、生徒が実感できるようにしていた。また、硬貨と紙幣の特徴について、100円や500円の切り替えを題材に扱い、実際に調べさせたり話し合わせたりするなどして主体的・協働的な学習が行われていた。</p>						
10/29(火)	6	22	公民	公共	津川威智夫	高橋 誓子
<p>明確な答えがない問について、インターネットを使って各グループでそれらしい答えを導かせる創造性が面白く興味深かった。マグネットシートを使って意見を書かせて黒板に掲示する点もデジタルとアナログが適宜使い分けられており、非常に参考になった。</p>						
10/29(火)	6	22	公民	公共	津川威智夫	阿部 政任
<p>答えのない問いは倫理でよくみるが、政経では初めてだった。通貨は経済の根本であるが、アンニュイな理解の上で立って利用されていることが実感できた。</p>						
10/30(水)	1	21	理科	化学	細谷 進	岸 嘉之
<p>Keynoteを使用しながら簡潔で伝わりやすい実験内容・操作の指示があった。実験操作においては事前に撮影した動画を流しながら指示をしたり、Numbersの表計算も利用して生徒のデータをタイムリーに処理してクラス全体に共有していた。ICTが効果的に活用できている部分は今後も真似していきたい。実験プリントの提出も紙ベースではなく、Classroomを通じた提出となっていた。新たな活用方法を見せていただきました。</p>						
11/5(火)	4	24	理科	化学	岸嘉之	加藤 華世
<p>操作の手順や理由など、説明が明確かつ簡潔。ICTを効果的に使っていて、生徒のすべきことがわかりやすく、プリントとプロジェクターで映す内容も一致しており、その場で書き込み指導もしていて、生徒の主体的な活動につながっていた。</p>						
1/20(月)	5~6	11・12・13	体育	スキー	体育科	齊藤 千秋
<p>自分の技能に応じた適切なコースを選び、班員動詞で声がけしながら安全に滑走していた。</p>						
1/21(火)	1~4	14・15・16	体育	スキー	体育科	齊藤 千秋
<p>職員1人あたりが担当する生徒の人数が多く、初級者の班編制を少人数にすることと、先導する職員と最後尾から転倒などの対応をする職員の2人体制にできるよう、体育科職員以外でスキー授業に協力できればいいのと思った。</p>						
1/31(金)	3~6	14・15・16	体育	スキー	体育科	高橋 奨
<p>班編制をしているとはいえ、様々な技能レベルの生徒に対して個別指導が為されていて、体育科の先生方の指導力に脱帽だった。一方で、体育科職員の負担が大ききように思われたため、技能によっては他教科の職員も含めた複数人指導が望ましいように感じた。</p>						



**令和6年度 研修集録**

令和7年3月 発行

発行者 秋田県立横手高等学校 研修部

秋田県横手市睦成字鶴谷地 68

電話番号 0182-32-3020